

「自然」と「ひと」とが共生する 快適な空間を育む。

まちづくりアンケート結果の抜粋

住民のみなさんの意向を新市建設計画に反映させることを目的に、中条町・黒川村の無作為で抽出した3,000の方を対象とした「まちづくりアンケート」を実施しました。

現状に対する満足度

「満足」の割合の高い5項目

1. 上下水道整備状況(17.0%)
2. ごみの収集・処理状況(13.3%)
3. 公会堂・集会場の整備状況(12.0%)
4. 幹線道路の整備状況(10.4%)
5. 自然の保全状況(9.8%)

「不満」の割合の高い5項目

1. バスや鉄道の利便性(25.8%)
2. 余暇・レジャー施設の設置状況(21.7%)
3. 憩いの場・公園の設置状況(20.0%)
4. 町村道の整備状況(17.0%)
5. 買い物の利便性(14.3%)

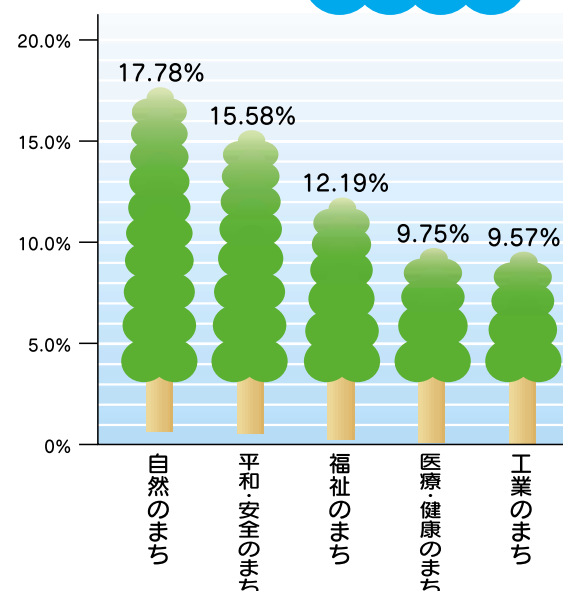


ロイヤル胎内パークホテル



胎内スキー場の夜景

まちのイメージ (上位5項目)



結果分析



両地域は自然環境に恵まれています。アンケートの結果により住民の皆さんもそれを意識し、守り育てたいということが見て取れる結果となりました。特に山や川、海などの自然を活かしながら、快適な空間づくりを考えていくものとします。

①自然の恩恵

「たいない」はアイヌ語で「清い水の流れ」を意味します。この清流が豊かな自然と貴重な動植物を育み、深い歴史を醸しだし、私たちの教科書となり、生活そのものであるといっても過言ではありません。

一方、山々の緑は、雨や雪解け水をゆっくりと流しだす「緑のダム」の役割を果たしています。両地域のエリア内の緑は、県内外の多くの人々を魅了し、扇状地に広がる緑の水田は、先人から受け継いだ活力と恵みを与えてくれます。

新市におけるまちづくりを考えるとき、この「自然」がひとつのキーワードになるのではないのでしょうか。

②自然を活かすまちづくり

ただ、自然だけで特色となるのでしょうか？ また自然環境の保全と都市基盤整備は各論で対立することも多く、議論が分かれることがあります。アンケートでも、産業の振興・活性化、雇用対策、道路整備を望む声が少ないことも事実です。

ここにしかない自然に着目しながら、産業や交流に活用し、住む人にやさしく、快適で、また訪れる人に潤いを提供できるかが大きなポイントとなります。

③地域版「三位一体」の推進体系

アンケートにおける住民ニーズを考えたとき、「自然保護」の精神は教育や交流に活用できます。また、自然を活かした「産業振興」が雇用の促進や地域活性化に、水や緑はうるおいと快適さを与えてくれることから「住民生活・福祉」の向上に寄与することが期待されます。

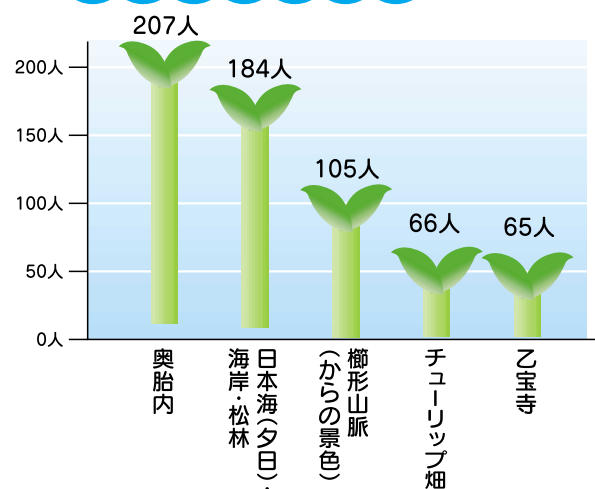
これらがまちづくりを議論するときに「三位一体」となって推進されるべきものですし、施策の体系を考えるときの骨格となるものです。



楡形山脈ハイキングコース

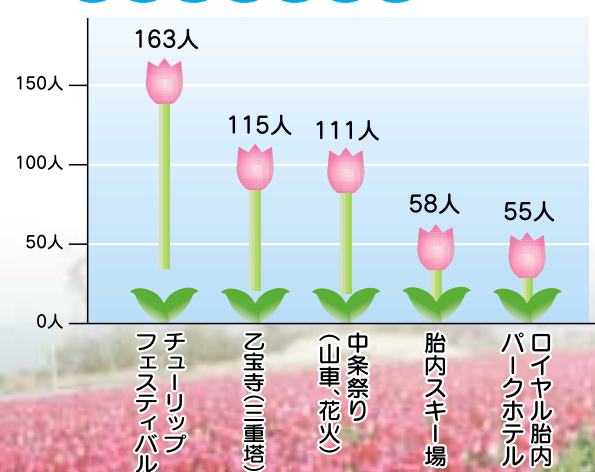
エリア内の美しい風景・景色

(回答数 1,432・上位5項目)



エリア内の自慢できるもの

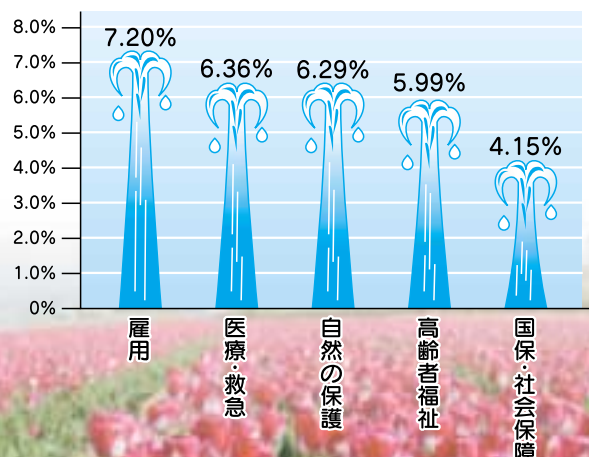
(回答数 1,335・上位5項目)



「水」と「緑」のまちづくりを共に考えていきましょう。



期待する施策 (上位5項目)



ミズバショウ

合併やまちづくりに関する意見・要望

(回答数 1,050・上位6項目)

